

経営比較分析表

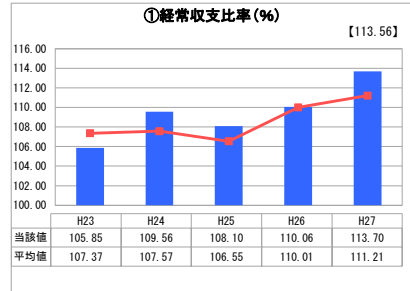
神奈川県 大井町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A6
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	62.50	99.87	1,652

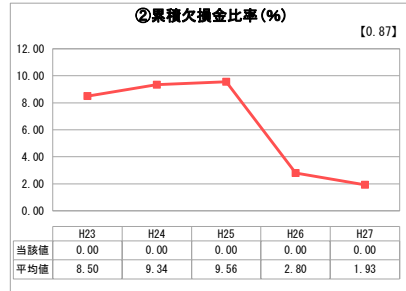
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
17,279	14.38	1,201.60
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
17,209	14.38	1,196.73

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成27年度全国平均

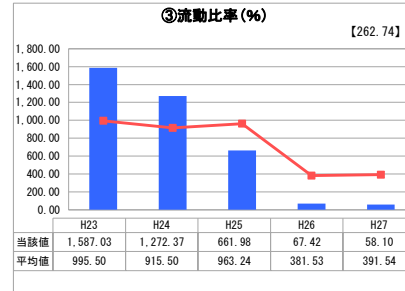
1. 経営の健全性・効率性



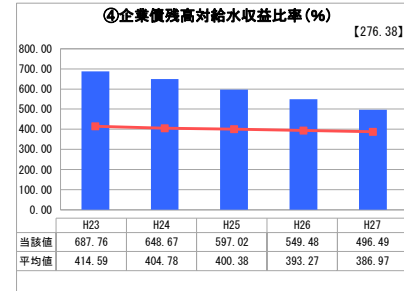
「経常損益」



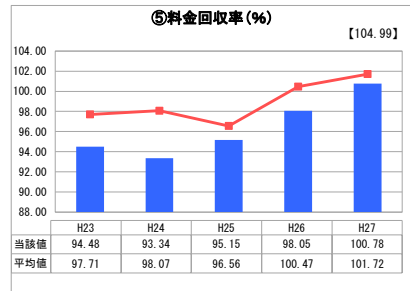
「累積欠損」



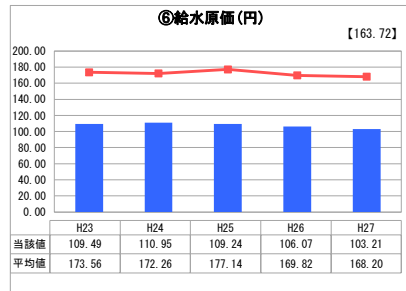
「支払能力」



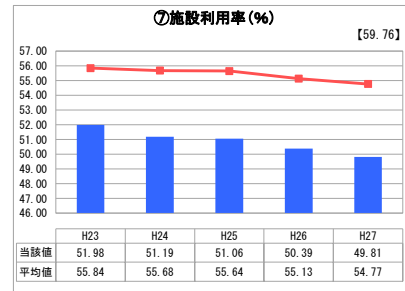
「債務残高」



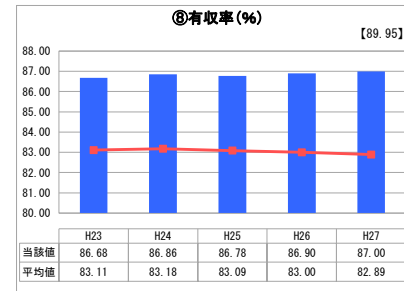
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

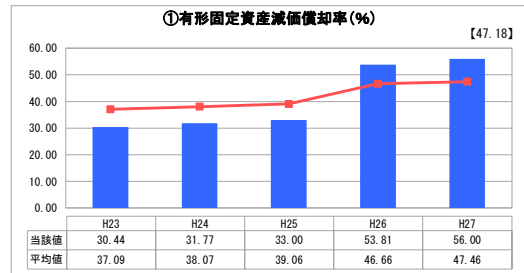


「施設の効率性」

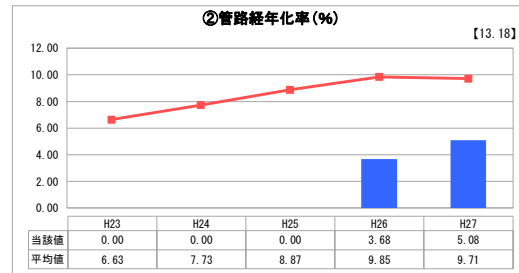


「供給した配水量の効率性」

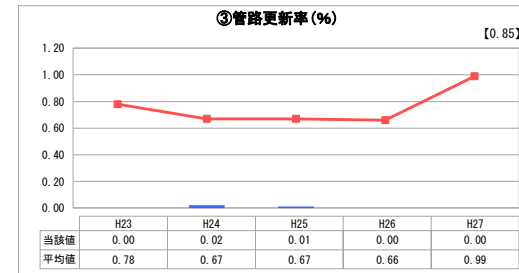
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率100%以上、累積欠損金比率0%であり、単年度では黒字経営ではありますが、流動比率が類似団体に比べて、低い水準となっております。このことは、給水収益の減少や施設・管路等の維持修繕費の増加等による現金の減少が要因と考えられます。今後も給水収益は減収を続けること見込まれますので、料金改定による経営改善を図っていく必要があります。また、有収率は類似団体よりも高い水準となっておりますが、施設利用率は減少を続けていることから、今後は施設のダウンサイジング等も検討する必要があります。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率、管路経年率が増加傾向にあり、また管路更新率が0%であることから、確実に施設及び管路の老朽化が進行しています。施設及び管路の更新には多くの財源が必要となることから、更新計画に沿って、優先順位の高いものから計画的に更新を行っていく必要があります。

全体総括

給水収益の減少と、施設・管路の老朽化が進行していることから、料金改定により経営改善を図り、計画的に施設・管路の更新を進めていく必要があります。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。